

歯科医師による口腔内の検査をひつと見守る久保さん。



病院や施設の垣根を越えて
専門知識を持った人たちが集まり
そこに暮らす人の健康を守る。
それこそが理想の地域医療だと思う。

伊藤隼也
が行く
vol.38



Ito
SHUNYA
GA
IKU
伊藤隼也
が行く

vol.38

長崎県五島中央病院

島には島なりの 医療がある

伊藤隼也は今回、九州の最西端にある五島列島の福江島を来訪。五島中央病院(長崎県五島市)に勤務し、摂食嚥下障害看護認定看護師として地域医療に取り組む久保桂さんに、話を伺いました。



伊藤 今日はこれまでの取材と違って、久保さんの生活も含めて取材させていただきました。元気いっぽいお姉ちゃん、弟さんはちょっと甘えん坊かな? スーパーマーケットで久保さんとお子さんが買い物をするのが見えました。元気いっぽいお姉様子は、とても楽しそうで、素敵な姿勢だなと思いました。

伊藤 今日は笑顔が絶えないラウンド

久保 ありがとうございます。本当にもう、元気が良すぎて。取材でなければ、此っていました(笑) 伊藤 いえいえ、あれくらい元気いいほうが子どもらしいですよ。その後の看護師としての久保さんの取材では、摂食嚥下のラウンドに同行しましたが、看護師や薬剤師、言語聴覚士のスタッフらとともに、楽しくお仕事をされているところがとても印象的でした。医療現場に笑顔が絶えないということです。

久保 患者さんのことが、本当に大好きなんです。

伊藤 その気持ち、こちらにも十分伝わってきました。現場を知らない人からしたら、島ではたいした医療ができるないと思う人がいるかもしれない

転載・二次使用禁止

患者さんの「食べる」「飲む」
希望を叶えないと資格を取得

伊藤 三つの魂百まで。ですね。摂食嚥下に興味を持つようになったのは、小さい頃から接していた高齢者の「食べる」という部分を支えたいという思いがあつたからですか?

久保 摂食嚥下に興味を持つようになつたのは、看護師になつて4、5年目です。ただ、看護学生時代にまとめた論文を読み返すと、ほとんどが食事に関連していくんです。

伊藤 やはり、潜在的なところで「飲み込む」「食べる」ということの重要性に気が付いていたのでしょうか。さつかけが何があったのでしょうか。

伊藤 患者さんの「食べる」「飲む」希望を叶えないと資格を取得

伊藤 三つの魂百まで。ですね。摂食嚥下に興味を持つようになったのは、小さい頃から接していた高齢者の「食べる」という部分を支えたいとい

う思いがあつたからですか?

久保 摂食嚥下に興味を持つようになつたのは、看護師になつて4、5年目です。ただ、看護学生時代にまとめた論文を読み返すと、ほとんどが食事に関連していくんです。

伊藤 やはり、潜在的なところで「飲み込む」「食べる」ということの重要性に気が付いていたのでしょうか。さつかけが何があったのでしょうか。

PROFILE

長崎県五島中央病院
摂食・嚥下障害看護認定看護師

久保 桂さん

長崎県五島列島生まれ。H14年、国立療養所利根山病院付属看護学校卒業後、大阪の病院で2年間勤務。その後、現在勤めている長崎県五島中央病院に入職。H22年摂食・嚥下障害看護認定看護師を取得。3児の母。



久保 きっかけというか、今も記憶に残っている患者さんがいます。終末期の方でした。五島の人つて本当に酒が好きなんですが、その方も「焼酎を一杯でいいから飲みたい」と望まれてい。それで、安全にお酒を飲んでいた。そこで、安全にお酒を飲んでいたくて、摂食嚥下の講習会に参加しました。でも、その間に患者さんが亡くなってしまった……。

伊藤 それは残念ですね。飲ませてあげられなかつたのが、心残りです。

伊藤 でも、その方には間に合わなかつたけれど、久保さんの摂食嚥下への取り組みはほかの患者さんへ行われているわけですから、とても大きな意



守護你
才行く
...38

食事内容について家
族に伝えるのも久保
さんの役目。

久保 高齢化率は全国的にみると25%ですが、ここは34%で3人に一人が高齢者です。リスク的な患者さんも増えている。一つの疾患だけじゃなく、複数の疾患に対応できる看護師が必要になってしまいます。看護師一人ひとりがもつと勉強していくないと、きちんとした看護を提供できないと思います。

伊藤 患者さんの評価もそうですが、人は「食べられない」出せない。状態を経て「こなっていく」言葉は良くないかもしれませんけれど、行き過ぎの医療ではなく、上手に亡くなるための看護も必要ではないかと僕は考えているけれど、久保さんはどうですか？

久保 実は私も最近、そのことを考えています。患者さんの前ではなかなか言えませんが、食べられなくなつてか

伊藤 そういうえば、今日、脳梗塞の患者さんについて、天候が悪くてドクターへりが飛ばせなくて、自衛隊のヘリで搬送したケースがありました。ここにはこの良さがあるけれど、緊急で助かる人が教えないのはよくない。だから、緊急派遣の医師に来てもらつて手術をする方法も悪くないですよね。

久保 当院にもいろいろ勉強して知識がある看護師や医療者がたくさんいます。そういう人たちが指導する側に回ることで、医療、看護の質は上げられますし、そのような医師を育えてもらつた分な対応ができるかと思います。五島の

五島コラム「五島はこんなところ」

五島列島は、長崎県の沖合約100km西にある大小140の島々からなる地域。五島中央病院がある福江島は、五島列島で最大の島で、歴史的には日本唯一の海城「福江城」があり（現在は城壁のみ）、武家屋敷のなごりの石垣は当時のままの姿を残す。一方で、ここはキリスト信仰の島としても知られる。キリスト教弾圧により多くの殉教者を出したが、信仰は今も息づき島を巡ると至るところに教会が建てられている。

自然では、「日本の渚100選」に選ばれた透明感のある美しい海と真っ白な浜辺、リアス式海岸でみられる岬は必見。釣りの聖地でもあり、絶好のダイビングスポットでもある。「五島の夏は本当に最高。ぜひ遊びに来てください!」(久保さん)



ら攝食嚥下の評価依頼が来ますけれど、それは自然の摂理なんじゃないかって感じるときもあります。食べられなくなつて胃瘻を設置された場合も、それが果たして正解なのか……。考えさせられることが多いです。

人は消極的な面があるので、そこを愛していかないといけないです。伊藤 現状維持ではダメ、ということですね。一方で、全国一律で医療の水準を保とうすることは重要なけれど、このごろは、そういう医療や看護で患者さんが果たして幸せだろうかと考えたくなる局面によく出会います。高度な医療や最新のシステムといえば聞こえはいいけれど、ときに患者さんを直き去りにして専門性ばかりを追求するような姿勢が、この国の医療に大切な何かを失わせたと感じます。患者さんに寄りそう五島の医療の良さを本当に大切にしてほしいです。

PROFILE

伊藤隼也
(いとうしゅんや)
医療ジャーナリスト・
写真家
医療情報研究所代表

いから、認定を取得するには、病院を離れて学校に通わなければいけませんよね。病院は久保さんの希望をすんなりと受け入れてくれたのでしょうか。

久保 当時は、退職しなければ学校に行けない規則だったので、労働組合を通して、「休職扱いにして欲しい」と訴え、規則を変えてもらいました。

伊藤 それはすごい。でも、それだけ専門的な知識を得たという気持ちが強かつたんですね。離島でも学ぶ環境を支えることは重要なと思います。

味があると思います。認定看護師は、いつ取得されたんですか？

久保 5年前です。根拠のある看護をしたいと思ったんです。

伊藤 ここにはそういう教育施設がないから、認定を取得するには、病院を離れて学校に通わなければいけませんよね。病院は久保さんの希望をすんなりと受け入れてくれたのでしょうか。

久保 当時は、退職しなければ学校に行けない規則だったので、労働組合を通して、「休憩抜きにして欲しい」と訴え、規則を変えてもらいました。

伊藤 それはすごい。でも、それだけ専門的な知識を得たいという気持ちが強かつたんですね。離島でも学ぶ環境を支えることは重要なと思います。

都会の医療を地域にてはなく、
地域から拡がる医療も悪くない。
久保さんにはもつと五島の医療を
発信していい。ほしい。

岐大や他の医療施設、福祉施設などで働いている方たちです。

記の質問を答えて、それを取り入れてもらつたりもします。

久保 実は、私も高を仰たどりは「もう帰つてこないだらう」と思つていました。でも、実際帰つてみると、安定感、安全感があつて、もう外には出られません（笑）

伊藤　まさに、お五いの顔が見える医療で、それがこここの良さなのかもしれませんですね。都合だと、まずは連携のためのシステムを作つて、その上で開業医師会などに依頼して……という感じですが、大事なのはシステムじやなく、現場でのコミュニケーションなのに、実際は形だけのシステム作りを少なくていいです(笑)。厚生労働省は地域包括ケアシステムの構築を実現するけれど、その手本がここにはあるような気がします。

表しましたが、そうしたら驚かれました。「五島でもできるんだ」とて（笑）伊藤　それは失礼な話ですね。でも、実際のところ、多くの医療者は実態を知らないと思う。学会だけでなく、ブロガーやでどんどん久保さんたちが行っている医療を全国に発信されるといいかもしないですね。

その力が現代人には弱くなっている。そういう力を養える場は、意外と地域にあるような気がします。職場を離れたら付き合わないのではなく、お互いの生活を理解しながら働くという環境は、いいですね。

久保 私生活が充実すると、不思議と病棟にも活気が出でてきます。

伊藤 その一方で、離島の医療ならでは



ナースステーションにてラウンドの内容を確認。